

困っている
地域農業を救うのが夢



目の当たりにして感じた重圧

大学卒業後に県外の農業生産法人で経験を積み、父の後継者として当社に勤めて5年の月日が経ちました。どこへ行っても「祖父や父の後継者」と認識してもらおうことが多く、これまでの実績や歴史の偉大さを痛感する毎日です。また、地元の青年農業者クラブで会長を務めさせてもらう機会があったのですが、周りにいる農家のレベルの高さにも脱帽するばかりです。正直に言うと、自分が当社や地域農業の伝統に泥を塗ってしまわないか、大きな重圧がのしかかっています。でも、だからこそ、そんな最悪なことにならないよう毎日懸命により良い農業経営とは何かを考えて動き回っています。



▲この顔を覚えてください。西田昌起です！

きつと一生忘れない経験



▲食べる人の顔を思い浮かべると、すべての作業に手抜きなしです。

自分の同級生が家庭を持つ年齢になりました。当社の米などを友人に買ってもらおう機会があるので、「マッキー（昌起）の米はうまい！」と、友人が親戚にまで紹介し購入してもらえたことがあります。当社全体からするとわずかな売り上げかもしれないですが、祖父や父ではなく自分だからこそ買ってもらえた経験がうれしくて、今でも友人の顔を思い出すと笑顔になります。そして、それは自分が手掛けた農産物で誰かを笑顔にするといった農家の原点のような体験でした。「初心忘るべからず」とよく言いますが、この経験を10年後、20年後も忘れないよう、おいしく安全なものを作れるだけ安く皆さんにお届けしていきたいと思っています。

厳しいからこそできることがある

最近よく考えるのは、自社の農産物を買ってくれる人だけがお客さんではないということです。農地を預けていただいている地主さんはもちろん、集落や地域全体が、私にとって真正面から向き合うべき相手だと思っています。集落内で家や農地を手放される話を聞くと、悲しい気持ちになります。確かに、農業は厳しい世界で「楽しいから農業やろうよ」と手放しには言えないのが現実です。しかし、人間にとって欠かせない「食」は、集落機能から生み出されているものです。そういった意味で将来は、地元はもちろん、あるいは県外などで本場に困っている地域をこの手で助けられる存在になるのが私の夢です。



▲地域の青年農業者による発表会で、2部門のうち私たち湖東地域が最優秀賞をW受賞した際の写真です。1人では成し得ないことも、仲間となることができる場合があります。皆でがんばろう！

ひこねしたづちちょう
彦根市田附町

(有)びわこ農産 のう さん

にしだ まさ き
西田 昌起さん(31)

主な生産品目

品目名	規模
水稲	36ha
小麦	17ha
大豆	25ha
ソバ	9ha

(令和6年度)

